

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570400410		
法人名	社会福祉法人 萩市社会福祉事業団		
事業所名	萩市中津江認知症高齢者グループホーム なごみ		
所在地	山口県萩市大字椿東315-6		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさ」を大切に、「したい事・できる事」の発見につとめ、役割りを持って生き甲斐を持って生活できるよう支援している。調理や洗濯、掃除などでもできるだけ利用者と共に行い、個々の生活リズムを尊重したケアを行っている。また、趣味や余暇活動を通して“楽しみ”を見つけ、利用者・職員が日々笑顔で過ごせる環境・空間を提供している。特に、外出支援には力を入れており、利用者の希望に沿った外出ができるようつとめている。

「家族・地域とのつながり」に重点を置き、家族参加型の行事(花見や夏祭り、忘年会など)を企画、実施している。面会や行事で来所された際は、利用者の状況説明や家族の要望などを聞き、情報の共有・ケアの向上に常時つとめている。また、地域の行事(季節のお祭りなど)へも積極的に参加し、定期的に地域との交流をはかっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の趣味や嗜好、生活歴を詳細に把握し、利用者の思いや言葉は日々のケア記録に記載して、本人のしたいこと、行きたいところ、食べたいものなどは、できるだけ実現できるよう努力されており、本人が今まで暮らしてきたそれぞれの生活が継続できるよう支援しておられ、職員のきめ細やかで質の高いサービスへの対応が伺われます。事業所での行事の様子、利用者の笑顔、職員の紹介、お年寄りの知恵袋など盛りだくさんの内容の事業所便りを地域包括支援センター等に配布されたり、地域のお祭りや行事に参加して交流されるなど、地域密着型サービスとしての理解が得られるよう地域に働きかけておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、出勤時には職員の目に触れるようにしている。今年度は、『理念』についての研修を行い、全体会議やユニット会議を通じて、具体的にケアとして展開させる必要性について確認する。地域との関係性を継続できるように、力を入れて取り組みを実践している。	理念を事業所の事業所内に掲示し、理念についての勉強会を行い、事業所と地域・家族との関係性をより深めていくことを職員全員で確認して、理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際での会話や地域への清掃活動を継続しながら、今年度は近隣地区の盆踊り大会へ参加するなど、地域住民との交流する機会を積極的に持つようにしている。また、萩全体を地域として捉え、公共施設やイベントなどへ出掛ける機会を多く持っている。	自治会に加入し、地域の清掃行事への参加、散歩で、近隣の住人と顔馴染みになるなど日常的に交流している。地域の恒例行事となっている芸能の夕べや七夕祭りへの参加、中津江地区の盆踊り大会に参加し、交流している。事業所便りを地域包括支援センター等に配布して事業所活動を地域に広めるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉委員やボランティア団体の見学を受け入れている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を全職員に配布し、各自記入してもらっている。職員の思いや取り組みを管理者がまとめ、ケアに対して見直す機会としている。	全体会議、ユニット会議で話し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員主導になりがちな日常のケアや、重度化による外出の減少などに対する具体的な改善に向けて取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族(4組)、民生委員、包括支援センター、在宅介護支援センター、消防分団員、グループホーム管理者のメンバーで2ヶ月に1度開催している。日々の活動内容や外部評価報告など意見交換を行っている。その内容を全体会議内で職員にも伝え、業務に活かすようにしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事報告、外部評価への取組状況等について話し合い、家族からの提案で、地域で計画している防災訓練に職員、利用者、家族で参加して地域の人々に事業所を理解してもらうことなどについて話し合うなど、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには、運営推進会議に参加してもらい、情報交換や相談等を行っている。虐待ケースの際、高齢福祉課や地域包括支援センターと協働し、スムーズに入所に結び付けた。	市担当課や地域包括支援センターとは、日常的なサービスの相談や情報交換をするほか、困難事例等についても解決に向けて協力を得ている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、全体会議内で研修を行っている。玄関の施錠はしておらず(夜間帯除く)、外出やユニット間での移動が、自由かつ安全に出来るよう、見守り・声掛けを行っている。	身体拘束については毎年1回研修を行い、職員全員が理解している。見守りを徹底し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、全体会議内で研修を行っている。職員による虐待になりうるケースはないか、職員間で話す機会を持ちながら、抑制・拘束のないケアに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方の入所により、制度に対する知識を全職員が持てるように研修会を実施予定にしている。具体的な研修内容として、職員が身近なテーマとして考える機会を作っていきたいと考える。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、十分に説明し理解された上で署名・捺印をもらうようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、苦情目安箱を設置し、意見を出してもらえるような環境作りに努めている。苦情としてはあがっていないが、面会の際には生活上の要望などを直接伺うようにしている。遠方の家族については、メールで交信するなど情報交換を行っている。	苦情箱を設置するなど、気軽に意見が出せるように工夫して、家族の来訪時や行事の参加時に意見や要望を聞いて、それらを運営に反させている。遠方の家族とは、メールで意見交換をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議・ユニット会議を通じて、職員からの意見を聞く機会としている。	月1回の全体会議、ユニット会議で、運営に関する職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。職員から意見が出た場合には、運営に反映できるよう職員全員で改善策を検討している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2ユニットで常勤16名、短時間1名を配置している。外出支援や家族との交流行事など、職員体制を整える必要がある際には、勤務変更を行うなどしながら対応するようにしている。有給休暇についても、出来るだけ希望に合わせて取得できるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や経験度に応じて、外部研修への参加を積極的に行うようにしている。施設内においても、全体会議やユニット会議での所内研修を職員間で担当するなど、知識や技術のスキルアップにつながるよう支援している。	外部研修は、勤務経験や段階に応じて受講の機会を提供している。全体会議での研修報告会や、年間を通して計画的な内部研修を実施している。新人職員は、法人での新人研修の後、ユニットリーダーの指導で、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡協議会へ加入し、研修会に参加している。また、萩・長門・下関地区のブロック研修会にも積極的に参加し、知識の習得や情報交換を行うようにしている。今後、同地区での交流や情報交換を行いたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込み相談があった時点で、できるだけ本人にも来所してもらい、思いや不安など現状を伺うようにしている。関連機関より情報収集しながら、在宅での様子を把握する為、自宅やサービス先に訪問し、関係性を築くようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護中や退院後の在宅復帰など、家族が困っている事や不安な事を聞きながら、必要に応じてアドバイスや情報提供するようにしている。その際、在宅ケアマネとの情報交換を密に取るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実情や要望を聞く中で、必要に応じて、他施設の情報や、居室情報を確認し提供するようにしている。情報提供した際には、担当ケアマネと連絡を取り、情報を共有するようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の「出来る事」「出来ない事」をしっかりと把握し、同じ時間を共有しながら、コミュニケーションを多く持つようにしている。出来る事は積極的にしてもらい、出来ない事はさりげなくサポートするようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自室や居間での団欒など、気軽に来訪できる雰囲気づくりに努めている。また来訪する機会を設ける為に、家族参加型の行事（花見や夏祭り、忘年会など）を企画し案内するようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所（自宅や美容院、スーパーや飲食店など）との関係性を継続できるよう、外出支援を積極的に行っている。人や場所との関わる機会を多く作るようにしている。	友人や親せきの訪問、利用者の誕生日に昔よく行っていたレストランでの食事、行きつけの美容院の利用、独り暮らしをしていた利用者には自宅に寄るなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の主張が強く、トラブルになることも多々あるが、個々の性格や利用者同士の関係性を上手く保てるように支援するようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても、他施設や医療機関などへの訪問や情報提供など、必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「好きな事」「出来る事」「興味のある事」など一緒に関わる事で、その日の思いに添って支援するようにしている。また、ケアプランの見直しを行いながら、利用者の思いや意向を実現できるように努めている。	アセスメントでは、本人の趣味や嗜好、生活歴を詳細に把握している。介護記録に日々の利用者の生活の様子や行動、言葉等を記録し、希望や意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の関わりの中から情報収集を行いながら、カンファレンスにより職員と情報や状態を共有する。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「出来る事」「出来ない事」をしっかりと見極めながら、「出来る事・やりたい事」は自然な形で出来るよう環境を整えている。調理やおやつ作り、掃除や趣味活動など、自由に行えている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議時でのカンファレンスに合わせ、3ヶ月毎での見直し、状態変化時にはその都度見直しを行っている。夜間での開催となり本人の出席が難しい為、日頃からの要望確認や受診状況等を確認しながら、介護計画書を作成している。	職員全員で、ケアカンファレンスを3ヶ月(会議は毎月)に1回開催し、利用者の日々の記録、介護記録等からの本人の要望、主治医の受診時の意見、面会時や電話連絡時の家族からの意見を参考にしながら介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と介護記録を併用し実践している。事項の詳細や具体的な内容については、日々の記録としてパソコン内に記録している。口頭での申し送りと合わせ、連絡ノートを活用するなど、情報の共有に努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診だけでなく、他科受診についても、本人や家族の要望に合わせて対応するようにしている。家族参加型の行事(花見や夏祭り、忘年会など)にも柔軟に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者個々の要望に応える為に、社協ボランティアを通じて、生花(毎週火曜)や三味線(月1回)のボランティアに在所してもらっている。その他、選挙や買い物、理美容に関しても、要望に応じて柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	約7割の入所者が、入所前のかかりつけ医による医療を継続して受診できるよう支援している。他科受診についても、利用者と家族の意向を伺いながら、必要に応じて家族の付き添いを依頼している。	利用者や家族の希望を優先し、協力医療機関による受診のほか、利用者や家族の希望するかかりつけ医においても継続受診を支援している。受診は、基本的には家族同行となっているが、必要に応じて職員が代行している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置や訪問看護との契約はしていない。かかりつけ医に相談しながら、適切に受診に結びつけるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室や担当医、看護師、リハスタッフへ状態を確認するなど、医療機関との連携を密に取るようにしている。また、入院による負担やストレスを少しでも軽減できるよう、面会し談話する機会を作っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期での関わりは行っていないが、重度化した場合について、事業所として出来る範囲内で、かかりつけ医と協働しながら生活を継続できるよう支援している。本人・家族への十分な説明と理解、協力が今後の課題と思われる。	利用開始時に、事業所の方針を家族に説明している。重度化した場合には、利用者や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談し、方針を全員で共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント部会において、事故防止・ヒヤリハットについては検討している。毎月の全体会議において、事故報告書の内容と防止策について話し合う機会を持っている。事故報告後の様子観察期間についても、しっかり管理しながらおこなっている。応急手当や初期対応の研修について、今後実施予定。	事故報告書、ヒヤリハット報告書を整備し、月1回の全体会議でその改善策を検討するなど、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。全職員対象の応急手当や初期対応の定期的訓練は行われていない。	・全職員対象の応急手当・初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルあり。非難訓練を消防署の協力得て、年2回(昼夜想定にて)実施している。運営推進会議に、消防分団員の参加あり、地域との協力体制を整えている。今後、協働での避難訓練が実施できればと考えている。	災害マニュアルを作成し、夜間想定を含めた避難訓練や避難経路の確認等を行っている。運営協議会でも議題として取り上げ、消防分団員の協力も得られているが、地域との協力体制の構築までには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇部会を中心に、接遇に対するアンケートや研修を行いながら、尊重した声掛け・言葉使いをするよう心掛けている。現場の中で、職員間で指摘し合いながら、常に意識しての接遇をするようにしている。	接遇に対するアンケートや研修を基に、日々の関わりの中で、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応に気を付けている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日や時間、飲み物やイベントでの選択メニュー、エプロンや茶碗・湯呑みの購入等、利用者が選択できる場面を少しでも多く作るようにしている。ユニットでの外出や遠足、パーティーの内容についても、利用者と相談しながら決めるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者とのコミュニケーションを多く持つようにして、どのように過ごしたいか確認しながら、利用者主体を心掛けて関わりを持つようにしている。利用者個々のペースは大切にしているものの、職員側の都合になってしまう場面もある為、職員間での声掛けが必要と感じる。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類の購入時には、一緒に外出し、自分の好みの物を購入してもらうなど、その人に合った「おしゃれ」が出来るように支援している。それぞれ行き付けの美容院に行き、整髪や顔剃りなどにも、気を配りながら、馴染みの関係性を継続するようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食の副食は外注での配食となっている。食材の買出しや調理、盛り付け、片付けなど、出来る所はやってもらっている。時には、広告でのお寿司を注文したり、ソーマン流しや外食など、食事を楽しめる環境を整えるようにしている。	昼食、夕食の副食は業者の配食メニューであるが、準備や盛り付けなど利用者のできることを職員と一緒にして食事を楽しむことができるように支援している。利用者一人ひとりの好みや希望を大切にし、出前や個別の外食、バイキング形式の行事食など、食事が楽しめるよう工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については、「日々の記録」にて記入し、把握するようにしている。利用者ごとに、一日のトータル摂取量を記入するようしており、水分が不足しないように注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、必要に応じて見守りや介助を行なっている。週1回以上、ポリデントにて義歯洗浄を行なっている。 歯ブラシやコップについても、週1回消毒液にて洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行いながら、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう促している。中には、ポータブルトイレと併用している利用者もいる。	利用者の排泄パターンを把握して、時間帯に合わせて声掛けや誘導を行って、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便促す為に、起床時の冷水飲用や入浴時の腹部マッサージ、おやつでは牛乳やヨーグルトやバナナジュースなど工夫して摂取してもらっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員側の都合で入浴の声掛けしている部分もあり、個々に合わせたタイミングでの入浴が行えていない事もある。体調を重視し、シャワー浴や足浴なども行い、無理の無いように配慮している。バスクリンを入れたり、浴室内で歌を歌うなど、楽しめるように工夫はしている。	入浴は毎日可能で、時間帯は10時半から17時までとなっており、利用開始時に聞いた本人の希望にそって対応している。利用者の状態によりシャワー浴や清拭、入浴剤を使ったり、浴室で一緒に歌を歌ったり、入浴を楽しむ工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを大切にしながらも、体調（バイタル）に応じて休息を促すなどの声掛けを行なっている。居間での畳や、廊下での椅子やソファなど、休息できる場所を多く設けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテ内にてすぐに確認できるようにしている。翌日の内服薬は、前日夜勤者がセットするようにしているので、利用者個々の服薬内容については、しっかり把握するように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や園芸、塗り絵や貼り絵など、趣味を活かせる場を多く作るようにしている。ボランティアとして、生花、三味線の方に来訪してもらっている。また、日常生活の中で、掃除やごみ捨て、調理、花の水遣りなど、その人の特性を活かせる活動を担ってもらうことで、活躍できる、張り合いのある生活を支援している。	畑でのサツマイモ、えんどう豆、トマト、水菜などの野菜作り、活け花や三味線、洗濯物たたみやベッドメイキングなど、一人ひとりに応じた楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、散歩やドライブ、買い物など外に出る機会を多く作っている。自宅や馴染みのある地域への外出や、距離を伸ばしての外出など、普段とは違う場所への外出を計画し実行している。	個別対応の外出の他、季節に応じた花見(桜、もみじ狩り、椿まつり等)、地元のイベント、夏祭り、花火大会、観光地めぐりなど、利用者の希望にそって戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の希望の利用者は、本人・家族同意にて所持されている。金銭管理が困難な利用者は、説明・了承してもらい、施設にて預かっている。外出の際など、希望時にはいつでも出金できるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者希望時には、自由に玄関にある公衆電話を使用できるようにしている。年末には、家族や友人などへ年賀状を直筆で書いてもらい郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には、季節に合った壁面作りや行事写真など構成し、中庭やベランダにおいては、花や野菜など季節感が感じられるようになっている。居間においては、食事前の匂いや包丁の音などの生活感が溢れている。	ベランダには利用者が育てている野菜のプランターがあり、広々としたリビングには畳の間があり、観葉植物や季節の活け花、壁には、職員と利用者の顔のあるアート作品、行事の写真などが飾っており、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においても、ソファ・テーブル・テレビ設置し、木の合う仲間同士で、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。また、廊下にも椅子を設置し、花や草木を眺められる場所を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも安心して生活してもらえるよう、タンスや仏壇、テレビ、コタツ、人形、椅子など、馴染みの物を持参してもらうようにしている。希望に応じて、畳を敷くことも可能。家族の写真やグループホームでの生活の写真などを、壁に貼っている利用者も居り、安心感の中で生活してもらえるよう工夫している。	ベッド、小タンスは備え付けとなっており、テレビや机、化粧品、家族の写真や絵、本等使い慣れたものが持ち込まれ、利用者が安心して過ごせる生活空間となっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な利用者は、歩行器を使用したり、排泄が不安な利用者はポータブルトイレを使用するなど、状態に合わせて福祉用具を活用している。		

2. 目標達成計画

事業所名 萩市中津江認知症高齢者グループホームなごみ

作成日：平成 24年 1月 19日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	19 20	○家族が参加できる行事が少ない。 従来、家族参加の行事として「夏祭り」を年1回開催していた。家族が演ずるおに住んでいるという利用者が多く、面会もままならない状態の中で家族とコミュニケーションをとるのは大変難しい。また、年に1回の行叔父では仕事の都合などで参加できない家族も多い。	○季節ごとに家族参加の行事を開催する。それらが定着する事で家族の参加が増え、コミュニケーションの場が増え、利用者と家族、職員(事業所)が一体となって生活を支えていく環境を作る。	○平成23年度より家族参加の行事を増やし、家族の参加を促している。まだまだ酸化数は少ないが、家族とのコミュニケーションの場としての役割は大きい。今後も継続して家族参加の行事を開催していきたい。	3年
2	29	○利用者の重度化への対応 当グループホームでは重度化への対応・大成が不十分。従来は、利用者の高齢化や身体・精神状態の悪化に伴う重度化に対応していなかったが、重度化しても入所継続を期待する家族が多く、今後導入の必要性を感じている。	○重度化が著名な場合であっても、利用者にとって当グループホームでの生活が”その人らしさ”を最大限に引き出せる環境が整備できる。	○重度化への対応が実現できるよう(利用者や家族の希望、身体・精神状態、環境などを考慮した上で)段階的に整備を行う。人員配置等の見直し、人材確保など。	3年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。